

地域循環共生圏と 地域の自然資源の活用・生物多様性保全

平成31年3月25日
環境省 総合環境政策統括官
中井 徳太郎

第五次環境基本計画の概要

- 環境基本計画とは、環境基本法第15条に基づき、**環境の保全に関する総合的かつ長期的な施策の大綱等**を定めるもの。
- 計画は**約6年ごとに見直し**（第四次計画は平成24年4月に閣議決定）。
- 平成29年2月に環境大臣から**計画見直しの諮問**を受け、中央環境審議会における審議を経て、平成30年4月9日に**答申**。
- 答申を踏まえ、**平成30年4月17日に第五次環境基本計画を閣議決定**。

現状・課題認識

- 我が国が抱える環境・経済・社会の課題は**相互に関連・複雑化**
- SDGs、パリ協定等、**時代の転換点**ともいえる国際的潮流

持続可能な社会に向けた基本的方向性

- SDGsの考え方も活用し、**環境・経済・社会の統合的向上を具体化**
 - 環境政策による、**経済社会システム、ライフスタイル、技術などあらゆる観点からのイノベーション創出**や、経済・社会的課題の**同時解決**に取り組む
 - 将来にわたって質の高い生活をもたらす**「新たな成長」**につなげていく
- 地域資源を持続可能な形で活用**
 - 各地域が自立・分散型の社会を形成し、地域資源等を補完し支え合う**「地域循環共生圏」**の創造を目指す
- 幅広い関係者とのパートナーシップを充実・強化**
 - これらを通じて、持続可能な循環共生型の社会（**「環境・生命文明社会」**）を目指す

施策の展開

- 分野横断的な**6つの「重点戦略」**（経済、国土、地域、暮らし、技術、国際）を設定
- 環境リスク管理等の環境保全の取組は、**「重点戦略を支える環境政策」**として揺るぎなく着実に推進

我が国が抱える課題



国際的な潮流



地域循環共生圏

- 各地域がその特性を生かした強みを発揮
 - 地域資源を活かし、**自立・分散型の社会**を形成
 - 地域の特性に応じて補完し、**支え合う**



— サイバー空間とフィジカル空間の融合により、地域から人と自然のポテンシャルを引き出す生命系システム —

➡ **新たな価値とビジネスで成長を牽引する地域の存立基盤**

「オーナーシップ」と「ネットワーク」 からなる生命系システム社会



地域循環共生圏の概念

- 人間 = 細胞・組織が
自立・分散して機能



- SDGs = No one will be left behind. 誰も取り残さない(あらゆる個人が活躍)



- 地域循環共生圏 = 地域の各要素が自立・分散して機能



地域循環共生圏と2030アジェンダ(SDGs)

- SDGsは究極のゴール(What)であるが、実現する手法(How)は示されていないため、ゴールの実現には、人々に共感してもらえる具体的な道筋(How)を示すことが不可欠。また、SDGsのゴールは不可分で相互に関係するため※、個別のゴールの追求ではなく統合的な取組が不可欠。
- したがって、多くの人々の共感を得られる、地域が抱える課題やニーズを踏まえた暮らし・まちづくり・ビジネスのアプローチから、SDGsの全分野を統合した具体的な地域社会像を示したものが「地域循環共生圏」(Localization of SDGs)。
- 「地域循環共生圏」という具体的・包括的なビジョンを全員で共有することで、SDGs実現に個別分野ごとではなく統合的・横断的に取り組むことが可能となる。これにより、多様なステークホルダーの連携を促し、SDGsを実現するビジネスや施策に必要な資金、人材、技術、情報を各分野を超えて連携させることが可能となる。

※SDGsの不可分性・相互連関について(2030アジェンダの前文に記載)

1. **Transforming our world: the 2030 Agenda for Sustainable Development**(2030アジェンダのタイトル)

⇒(アジェンダ全体の実現によって)世界を変革する

2. They are **integrated and indivisible** and balance the three dimensions of sustainable development: the economic, social and environmental.

⇒統合され、不可分で、経済・社会・環境の持続可能な開発の3面をバランスさせたGoal。

3. The interlinkages and integrated nature of the Sustainable Development Goals are of crucial importance in ensuring that the purpose of the new Agenda is realized.

⇒SDGsの相互関係と統合的な性質は新しいアジェンダの目的の達成を確実なものとするために極めて重要

■地域の自然資源の活用・生物多様性保全のポイント

◆ 地域資源を持続可能な形で最大限活用し価値を創造

- 観光資源としての美しい自然環境の保全と活用 ～国立公園満喫プロジェクト～
- 地域を象徴する生物の保全と連動した農林水産品のブランド化

◆ 持続可能なライフスタイルと消費への転換

- 森・里・川・海の価値の再認識
- 現代のライフスタイルに合った温泉の楽しみ方 ～新・湯治～

◆ 生態系の力を防災・減災に活用 ～ECO-DRR～

- 湿原による遊水効果、サンゴ礁による高潮被害の軽減といった生態系の持つ防災・減災機能に着目・活用



地域の自然資源の活用・生物多様性保全を契機とした
「地域循環共生圏」の創造へ

「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクト

私たちの暮らしを支える森里川海

プロジェクトの目標

土砂災害を防ぎ、
豊かな水を育む

森

生命の恵みを活かし
安全で豊かな暮らしを育む

里

災害に強く、
魚湧く

海

しなやかで、
生命があふれる

川

恵み（生態系サービス）

安全・安心・清く豊かな水
清浄な空気・土壌の保全
安全で美味しい食糧
バイオマス・地域特産品
災害防止・レクリエーション

人口減少・高齢化・過疎化・気候変動・過去の過剰開発・資源の海外依存など、様々な要因により、我が国の自然環境は荒廃し、**国民の暮らしにも影響**。



守る、支える、活用する

自然の恵みを引き出し、
経済性を伴ってまわる仕組みづくりと
それを支えるライフスタイルへの変革

○ **森里川海を豊かに保ち、その恵みを引き出します。**

森里川海が本来持つ力を再生し、恵み（清浄な空気、豊かな水、食料・資材等の恵みを供給する力や自然災害へのしなやかな対応力等）を引き出すことで、森里川海とその恵みが循環する社会をつくります。

○ **一人一人が、森里川海の恵みを支える社会をつくります。**

私たちの暮らしは森里川海の恵みに支えられているだけでなく、日々の暮らし方（消費行動や休暇の過ごし方など）を変えることによって、私たちが森里川海を支えることができます。一人一人がそれを意識して暮らす、いわば人と自然、地方と都市が共生する社会への変革を図ります。

ライフスタイルシフトに向けた取組

一人一人が、森里川海の恵みを支える社会づくり

- ・ 森里川海の恵みへの意識・支える気持ちの**醸成**
- ・ **子ども達**の笑顔あふれる**自然体験の場づくり**
- ・ オシャレで豊かな**ライフスタイル**の提案

国全体で
支える
社会づくり

ライフスタイルシフトに向けた普及啓発等を実施

読本『森里川海大好き！』の作成と普及

- 森里川海とのつながりや自然体験の重要性を小中学生に分かりやすく伝えることを目的とした「読本」を製作
- 有識者8名からなる編集委員会を設置
(委員長:東京大学名誉教授 養老孟司 氏)
- 平成30年度読書感想文コンクールを実施



養老孟司 委員長



編集委員会の様子

アンバサダーと連携した情報発信

- 若者及び子育て世代に影響力を持ち、環境行動を実践している著名人を「森里川海アンバサダー」に任命
- プロジェクトHP及びSNS等で連携した情報発信を実施
- アンバサダーMINMI氏によるテーマソングのPVをyoutubeにて配信



Facebookでの情報発信



テーマソング『MOTHER EARTH』

MY行動宣言 ~生物多様性を守るために、私たちにできる5つのアクション!~

Act 1



地元でとれたものを食べ、旬のものを**味わいます**。

Act 2



自然の中へ出かけ、動物園、水族館や植物園などを訪ね、自然生きものに**ふれます**。

Act 3



自然の素晴らしさや季節の移ろいを感じて、写真や絵、文章などで**伝えます**。

Act 4



生き物や自然、人や文化との「つながり」を守るため、地域や全国の活動に**参加します**。

Act 5



エコラベルなどが付いた環境に優しい商品を選んで**買います**。

宣言はこちらから → <http://undb.jp/spread-action/>